



オープンキャンパス 「農大発見の日」開催しました

6月8日（土）、15日（土）の両日、本校でオープンキャンパス2019「農大発見の日」を開催しました。

農業大学校への入学に関心のある方々等を対象としたもので、2日間合計で高校生等の生徒が67名、保護者や一般の方が64名、計131名の参加がありました。15日が荒れ模様のお天気予報だったためか、昨年度と比べて参加者は4分の3程度と少なくなりましたが、県内はもとより隣県の岐阜県、三重県、静岡県のほか、遠くは埼玉県からも参加していただきました。

当日は、大講義室でのパワーポイントを使った農大の概要説明と、学生寮や校内のほ場を巡るキャンパスツアーの二部構成ですすめました。参加者はスクリーンに映し出される教育スケジュールや履修科目・単位認定、各専攻の実習風景・先進農家派遣実習、海外派遣研修等についての説明に興味津々で聴いていました。



〔改修予定の温室前で参加者に説明〕

1時間ほどの時間をかけて学生寮や各専攻施設をめぐるキャンパスツアーでは、校内の広さ（約39ha）や畜舎・温室等の生産

施設数の多さに驚いた様子が見受けられました。また、寮内見学ではこじんまりとつつも清潔感のある舎室に、保護者の方も安心した様子でした。

オープンキャンパス終了後の受験相談では、入学試験、入学後の学習・生活などについての質問に対して、職員が回答やアドバイスをを行いました。

参加者からは、「自分の学びたい農業がしっかり学べると感じた。」、「実習や資格取得を行う環境が整っていると感じた。」、「今後の農業に対して将来性があると感じている。」、「農業をやりたいという子供の意思を後押ししても良い環境でした。」といった感想が寄せられました。



〔参加いただいた学生・父兄の方々〕

また、オープンキャンパス終了後、グループで来校した農高生たちに「4月に再会できること、期待していますよ。」と声をかけると、「ハイ、がんばります!」「〇〇専攻を希望しています。」など元気いっぱいに応えてくれました。

なお、7月31日、8月7日、28日の各水曜日午後1時30分から、農大に興味のある高校生及び御家族並びに県民の皆様を対象としたサマーキャンパスを開催します。ぜひ、御参加ください。

（学務科 伊藤 正美）

今年も強かった愛知農大！！ 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会

令和元年度東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会(三重大会)が、5月30日(木)31日(金)の2日間、三重県サンアリーナ(伊勢市)及び県営大仏山公園(多気郡)で開催され、9校の学生が一堂に会し、スポーツ競技を通じた交流活動が行われました。この大会は、スポーツを通じて連帯意識と学生の健全な活動を助長し、たくましい次代の農業を背負う担い手を育成することを目的として、30年以上の歴史を有しています。

本校からは、74名の学生が参加し、野球、バスケットボール、バレーボール、テニス、バドミントン、卓球の6種目に分かれ出場しました。

団体競技では、野球、バレーボール、テニスの3競技で優勝することができました。特に、野球は、平成28年度から4年間愛知県に優勝カップを持ち帰っています。

[愛知農大の成績]

団体	優勝	野球、バレーボール、テニス
	準優勝	卓球、バドミントン
	3位	バスケットボール
個人	優勝	卓球女子W、バドミントン男子W バドミントン女子W、テニス男子W
	準優勝	卓球男子W
	3位	テニス男子S

個人競技では、卓球女子ダブルス、バドミントン男子・女子ダブルス、テニス男子ダブルスで優勝することができました。



[テニス男子ダブルス]

また、参加した全競技5種目で入賞し、日ごろの練習成果を発揮し、上位の結果を残すことができました。



[ナイスバッティング!]

優勝した野球を始め、中学・高校時代に部活動で活躍した選手が多く参加し、豊富な競技経験を活かした質の高いプレーや試合運びは、他県の選手を圧倒しており、本校の選手層の厚さを感じました。競技が終了した後は、チームの垣根を超え混成チームで試合を行い時間の許す限りお互いの親睦を図りました。

大会に参加した学生は、他府県の学生と交流を深めただけでなく、選手、マネージャー、学生会や写真部など学生同士の絆も深まりました。次年度の京都大会での活躍も期待しています。

最後に、大会の準備や運営にあたった三重県立農業大学校の学生・職員の皆様に深く感謝申し上げます。

(学務科 鈴木 聡)



[閉会式終了後、参加者が全員集合]

やりたい仕事を見つけよう 第2回合同就職相談会を開催

令和2年3月卒業予定の学生を対象とした第2回合同就職相談会を6月7日（金）に開催しました。合同就職相談会は、毎回多くのJAや農業法人・農業関連会社等（以下、事業所）から参加申し込みをいただいております。今回も初めて参加される事業所を含めて24事業所から申し込みがありました。一方、学生は、まだ就職先を検討中の37名が出席しました。

就職戦線は今年も売り手市場で、6月1日時点の大学生の就職内定率は70%を超えたと報道されていますが、当校の就職内定はまだこれからが主体といった状況です。

はじめに、参加された全事業所から1事業所3分程度で事業概要等の説明を聴き、その後、個別説明会場に分かれて、1回30分で3会場を巡って具体的な業務内容や待遇、就業条件等について詳しい説明を受けたり、学生から質問したりしました。

まだ志望先を決めかねていた学生も、この合同就職相談会をきっかけとして就職活動を本格化させ、内定にまでこぎ着ける学生が毎回多数出ています。



〔事業所担当者の説明を聴く学生〕

「チャレンジ精神に富む学生に来てもらいたい」等の事業所側の説明に少し緊張しながらも、関心を持った事業所を巡って担当者へ熱心に質問し、自分の進路を見出そうとする姿があちこちの会場で見られました。

（農学科 横井 信之）

令和元年度外部評価委員会を開催

本校では「教育研修基本計画2020」に沿って、農業を担う者の育成、農業者生涯教育の充実、県民の食料・農業への理解促進に係る目標を掲げ、計画的な教育及び研修を行っています。そして、教育・研修活動の一層の改善や充実を図るため、毎年度、学校評価を実施しています。この取組では、学校評価シートに記載した取組実績に対する自己評価並びに策定した本年度計画の内容に関して、外部評価委員会を開催し、外部有識者に点検・助言・評価をいただいております。

本年度の委員会は6月3日（月）に、同窓会代表者、農業高校代表者、農業団体職員、農業経営者及び学識経験者（2名）の6名の委員に御出席いただき開催しました。

委員会では、龍谷大学の淡路教授が委員長となり、入口に当たる学生募集、入学後の教育内容、職員の資質向上、出口となる進路先、農業者や一般県民等の幅広い層への学習機会や農業理解の場の提供など、基本計画3年目となる平成30年度の取組項目毎に、各委員から御質問、御意見や御提言をいただきました。2年間の全寮制で得られる共同生活の体験を含め、ここでしか学べない魅力掘り起こし及びPR、農業高校から連続して学生が同じ課題に立ち向かう高大一貫教育の取組、スマホを活用した積極的な情報発信等、当校の戦略と戦術を描くための示唆に富んだ内容でした。

続いて、本年度の目標並びに取組計画については、特に、最先端の技術を常に求めていくことは困難な状況の中、最先端技術は校外学習や派遣実習で学ぶ等、役割分担していくことや、昨年度に開校した「愛知農業次世代リーダー塾」は、1年を超える一定の期間内で受講ができるしくみづくりを可能にする等、機動力が発揮できる運用の検討について、各委員から御意見や御提言をいただきました。

（教育部長 黒田 貴信）

（外部評価結果は、7月末に本校 web ページに公表予定）

校外学習

花き市場の仕組みを学びました(切花専攻)

6月3日(月)に切花専攻2年生10名が、花き市場の仕組みを学ぶ目的で愛知名港花き地方卸売市場に校外学習に行きました。

愛知名港花き卸売事業協同組合の担当者からは、出荷物の搬入、自動搬送、セリ場、搬出までの流れについて、詳しく説明をいただきました。また、仲卸の店舗、資材販売店舗なども見学しました。



[市場の仕組みを熱心に学ぶ学生]

当日は切花のセリ日で、全8レーンあるセリ場で同時進行でセリが進む中、電光掲示板の多量の情報を見ながら買参人(セリの参加者)がすばやく競り落とすスピード感に学生たちは圧倒され、見入っていました。また、切花専攻では生産したバラやキクなどを岡崎市内の花き市場に出荷しているので、学生は出荷物の価格決定過程に、非常に興味を持っていました。



[市場内の資材販売店舗の説明を受ける学生]

初めて花き市場を訪れた学生がほとんどでしたが、最新設備で品質管理がしっかりされていることがよくわかり、生産者が安心して出荷できるように市場が努力していること、また遠方の方のために在宅セリ(インターネット)も受け入れているなど、非常に多くのことを学んだようでした。

(農学科 野村 浩二)

ナシ・モモの生産現場を視察(果樹専攻)

6月5日(水)に果樹専攻の2年生13名がみよし市のナシと豊田市のモモ栽培についての校外学習を行いました。みよし市のナシについては、波状棚を利用した栽培が行われており、結果枝が規則正しく配置され、斜めに誘引されているため、作業性が良く、一般的な水平に誘引する栽培と比べて空間を有効に利用でき収量が多いとのことでした。

豊田市のモモについては、Y字整枝の園地を見学しました。側枝が直線状に配置されており、作業がしやすいことに加えて、日当たりが良好で高品質な果実が生産できるとのことでした。学生は樹のつくり方や新梢管理など熱心に質問していました。

(農学科 佐野 達也)



[モモ園で説明を聴く学生]

花き鉢物市場の役割と生き残りの戦略を学ぶ(鉢物・緑花木専攻)

6月3日(月)に鉢物・緑花木専攻の2年生11名が、校外学習で豊明市の「愛知豊明花き地方卸売市場」を視察しました。

豊明花きは、国内有数の花き市場で、年間取扱額は約112億円です。営業本部商品部長の井上博史氏から、市場業務の流れと花き市場を取り巻く状況、生き残りのために豊明花きが行っている戦略について、説明していただきました。

当日はセリ日で、6カ所のセリ台全てで



[セリの様子を見学する学生たち]

威勢良くセリ取引が行われていました。学生はセリのスピードに圧倒されながら、大型モニターを一生懸命目で追っていました。その後商品の保管エリアを見学させてもらい、自分たちが栽培している品目を見つけると、その出来映えに感心していました。担当者が日本一だと評価しているコショウランは、見た目の素晴らしさに加え、日持ちが抜群に良いとの評価でした。



[市場担当者から「売れる商品」について学ぶ]

全国の花き業界の市場規模は、この10年で販売額は63%、市場数は67%に縮小しており、また市場法の改正により市場間競争が激化して、市場が今まで以上に自助努力で稼いでいく必要があるとのことでした。そのため豊明花きでは、実需者や生産者と協議して新商品開発をしたり、量販店に対しては店頭価格のシールを市場で貼る等のサービスを行っていました。鉢物の流れは「育てる園芸」と「置く園芸」に二極化し、育てる園芸では耐暑性や耐寒性の高

い品種の育成、置く園芸では買ったままの状態でおしゃれに飾れることが重視されていました。

市場やセリを見るのは初めてという学生がほとんどで、話の内容が専門的について行けない部分もありましたが、全員が真剣に研修に取り組んでいました。提出されたレポートでは、市場の重要性を知ることができたとの記述が多く見られ、また自分たちももっとお客さんのことを考えて、商品作りをするべきとの意見も聞かれました。

(農学科 坂場 功)

専攻紹介 作物専攻

作物専攻では、9枚、計3.3haの水田ほ場で、水稻、小麦、大豆の栽培の実習に取り組んでいます。中には約1ha区画の大きな水田もあり、大区画ほ場に適した作業能率の高い直播栽培技術の実習を行っています。また、水田で作られた米の一部は、自分達で乾燥・粃摺り・精米を行って、毎週水曜日に実施している販売実習において消費者の方々に直接販売しています。加えて、生産した大豆を使って味噌造りを行い、農大祭で販売する五平餅に利用しています。

令和元年度の在籍者は2年生7名、1年生8名の計15名で、うち農家子弟の学生は6名です。入学当初にはイネに触ったことのない学生も少なくないため、1年生は水稻栽培に関する基本知識が身に付けられるよう実習を進めています。



[学生の運転による小麦のコンバイン収穫]

1年生の終盤からプロジェクト学習に取り組み、卒論としてまとめていきます。そのため、2年生になると各学生にはほ場を割り当て、担当学生が責任を持ってほ場の作業や栽培管理、生育調査等を行う体制としています。

本年度は、水稻の無農薬・無化学肥料栽培や農業総合試験場が開発した新品種の栽培法の検討、稲WCS（ホールクロップサイレージ）、密苗栽培などをテーマとして取り組んでいます。

（農学科 古川 恵）

鉢物・緑花木専攻

鉢物・緑花木専攻では、ガラス温室や遮光ハウスなど約1,500㎡の施設ほ場と600㎡の露地ほ場を利用して、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木、花壇苗等100種類以上の品目を栽培しています。主な品目はシクラメン、ニューギニアインパチェンス、ミニバラ、アンズリウム、シンビジウム、フッキソウ、パンジーなどです。

本専攻の学生は、在籍者19名（2年生11名、1年生8名）のうち専業農家出身者は3名、兼業農家出身者が1名です。また、普通科高校卒業生も多く、入学当初は品目の名前をほとんど知らない学生もいます。しかし、毎日、鉢物栽培に接することで、品目の名前と特徴を早く覚え、2年間で温室管理やかん水、施肥、病虫害防除等の栽培管理全般を身に付けます。



〔ニューギニアインパチェンスの出荷調整作業〕

専攻実習では、1年生の6月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木」の4つの部門に分かれます。各部門では、上級生によるきめ細やかで丁寧な指導に加えて、学生の「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで、実習作業内容の充実を図っています。さらに、学生に一定の栽培管理を任せることで、責任感や自分でプロセス管理する能力の向上を促しています。

4部門に分かれると同時に、プロジェクト学習を始めます。テーマは、新たな栽培方法の検討や栽培技術の改善、系統選抜など様々ですが、いずれのプロジェクトも単なる調査にとどまらず、品質向上や低コスト化、省力化などについて比較・分析を行い、農業経営の改善に繋がる学習内容となるように指導しています。



〔ミニバラの出荷調整作業〕

本年度のプロジェクトのテーマとして、わい化剤の施用方法と花苗の商品性、人口光（LED）によるコショウラン栽培などに取り組んでいます。

また、栽培技術を学ぶ一方で、自ら育てた鉢物を商品として販売する方法も学びます。地元市場への出荷、毎週水曜日に本校体育館で行う販売実習、他施設へ出かける校外販売実習を通して、市場ニーズや消費者ニーズ、対面販売による接客方法、商品情報の伝え方などを学習しています。

（農学科 坂場 功）

農業者生涯教育研修 生産高度化研修（キク）を開催

6月21日（金）、西三河総合庁舎10階大会議室において、「輪ギクの夏季高温対策について」をテーマとした生産高度化研修を開催し、県内各地のキク生産者を中心に85名の参加がありました。

講師には、前東三河農業研究所花き研究室の渡邊孝政主任を招き、「キクの夏季高温対策の試験結果について」と題する講演をしていただきました。

夏季の高温対策として、①少量多頻度の頭上散水处理、②生理障害（黄斑点症状）、③短時間の夜間冷房（ヒートポンプ冷房）に取り組み、その結果、頭上散水により良く伸長し、生育量が増える、黄斑点症状に有効である、夜間冷房EOD（日没後4時間）で開花が早まる等の報告をいただきました。



〔講義を聴くキク生産者のみなさん〕

また、田原農業改良普及課の西脇利恵技師から、「輪ギク夏季高温対策の現地事例について」と題し、①開花遅延、②挿し穂の腐り、③立ち枯れ症状等について具体的な優良事例とともに報告がありました。

参加者に実施したアンケートから、ほぼ全員の参加者が参考になったと評価し、試験研究、現地事例ともに、具体的でわかりやすい講演が好評で、大変有意義な研修となりました。

また、今後は病害虫対策やコスト削減できる技術への期待の声などが聞かれ、引き続き、生産者への技術向上や経営改善に繋がる研修の必要性を感じました。

（就農支援科 野村 芳江）

農大からのお知らせ

◇緑の学園（1日農業体験学習）◇

- ・開催日時
第1回 7月23日（火）
第2回 7月25日（木）
（第2回は農業高校3年生限定）
第3回 8月20日（火）
第4回 8月22日（木）
第5回 12月24日（火）
いずれも午前10時から午後4時30分まで
（雨天実施）
- ・対象：主に高校生（農業を学びたい高校卒業生を含む）
- ・定員：各回30名
- ・場所：農業大学校
岡崎市美合町字並松1-2
- ・事前に受講申し込みが必要です。
第1回、第2回は7月1日（月）まで
第3回、第4回は7月20日（土）まで
第5回は12月1日（日）まで
- ・詳細は本校ウェブサイトをご覧ください。
- ・問合せ先：就農支援科（野村）
0564-51-1034

◇オープンキャンパス（サマーキャンパス）◇

- ・開催日時
第1回 7月31日（水）
第2回 8月7日（水）
第3回 8月28日（水）
- ・対象：農業大学校に興味のある高校生及び御家族並びに県民の皆様
各回とも午後1時30分から午後3時まで
- ・場所：農業大学校
岡崎市美合町字並松1-2
- ・事前申し込みは不要です。
- ・歩きやすい服装と靴、帽子や水分補給のため飲み物をご持参ください。
- ・問合せ先：学務科（伊藤）0564-51-1602

◇経営管理研修◇

～農業簿記の基礎とソフトの利用方法～

農業簿記の基礎知識とパソコンを活用した農業簿記ソフトの利用方法を学びます。

- ・開催日時
8月21日（水）9時から16時30分
- ・開催場所：農業大学校
- ・対象者：パソコンの基本操作ができる県内農業者
- ・定員：20名
- ・申込締切：8月7日（水）

～農業経営改善及び法人化～

法人化のメリットと留意点を税理士から、トヨタ生産方式を中小企業診断士から学びます。

- ・開催日時
8月30日（金）13時15分から16時15分
- ・開催場所：農業大学校
- ・対象者：県内農業者
- ・定員：80名
- ・申込締切：8月16日（金）

- ・経営管理研修の申込方法
お住まいを管轄とする農林水産事務所農業改良普及課にお申込みいただくか、往復はがきで愛知県立農業大学校までお申し込みください。
- ・問合せ先：担い手支援科(福井)
0564-51-1034

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和元年7月の生産物実習販売についてお知らせします。

- ・販売日：7月3日、10日、17日、24日、31日
(祝日を除く毎週水曜日です。)
- ・時 間：午後3時から
- ・場 所：農業大学校体育館
- ※なお、袋入り堆肥の販売は、豚コレラ

防疫対策の実施状況に合わせて再開します（現時点では、8月からの販売再開を予定しています）。

- ・問合せ先：農学科(山本) 0564-51-1673

校内で豚コレラ防疫対策実施中

農大では、豚コレラ防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

- 畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
- 農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
- 主要な教育施設の各出入口付近全てに踏込消毒槽を設置(靴の消毒)
- 関係車両等の消毒の徹底
(車両消毒槽、動力噴霧器)
- その他、諸防疫対策を実施

